

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年7月11日
【四半期会計期間】	第22期第2四半期（自 2024年3月1日 至 2024年5月31日）
【会社名】	プライム・ストラテジー株式会社
【英訳名】	PRIME STRATEGY CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 渡部 直樹
【本店の所在の場所】	東京都千代田区一番町8番地 住友不動産一番町ビル1階
【電話番号】	03-6551-2995
【事務連絡者氏名】	執行役員 経営管理部長 城塚 紘行
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区一番町8番地 住友不動産一番町ビル1階
【電話番号】	03-6551-2995
【事務連絡者氏名】	執行役員 経営管理部長 城塚 紘行
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第21期 第2四半期 連結累計期間	第22期 第2四半期 連結累計期間	第21期
会計期間	自 2022年12月1日 至 2023年5月31日	自 2023年12月1日 至 2024年5月31日	自 2022年12月1日 至 2023年11月30日
売上高 (千円)	440,485	417,764	877,193
経常利益 (千円)	138,051	97,783	265,884
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	96,000	69,967	185,376
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	96,421	72,513	186,284
純資産額 (千円)	1,209,098	1,312,023	1,298,961
総資産額 (千円)	1,529,030	1,542,502	1,502,165
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	30.37	20.09	56.00
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	28.31	19.12	52.43
自己資本比率 (%)	79.1	85.1	86.5
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	77,871	65,588	155,893
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	19,417	4,923	20,707
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	730,677	35,861	630,179
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	1,348,196	1,353,133	1,326,025

回次	第21期 第2四半期 連結会計期間	第22期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2023年3月1日 至 2023年5月31日	自 2024年3月1日 至 2024年5月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	15.38	11.08

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 当社は2023年2月22日に東京証券取引所スタンダード市場に上場したため、第21期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、新規上場日から第21期第2四半期連結会計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定し、第21期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、新規上場日から第21期の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は1,477,118千円となり、前連結会計年度末に比べ33,295千円増加いたしました。これは主に、新規借入や新株発行等により現金及び預金が27,108千円増加したことによるものであります。固定資産は65,383千円となり、前連結会計年度末に比べ7,041千円増加いたしました。これは主に、有形固定資産が4,058千円、投資その他の資産が3,380千円増加したことによるものであります。この結果、総資産は1,542,502千円となり、前連結会計年度末に比べ40,336千円増加いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は159,893千円となり、前連結会計年度末に比べ10,968千円増加いたしました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金が6,968千円、契約負債が6,781千円増加したことによるものであります。固定負債は70,585千円となり、前連結会計年度末に比べ16,306千円増加いたしました。これは長期借入金16,306千円増加したことによるものであります。この結果、負債合計は230,478千円となり、前連結会計年度末に比べ27,274千円増加いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は1,312,023千円となり、前連結会計年度末に比べ13,061千円増加いたしました。これは主に、新株発行により資本金が4,863千円、資本剰余金が4,863千円増加したことによるものであります。この結果、自己資本比率は85.1%（前連結会計年度末は86.5%）となりました。

(2) 経営成績の状況

2024年6月10日発表の2024年1～3月期の実質GDP成長率は、前期比 - 0.5%となりました。2四半期ぶりのマイナス成長であり、内需が4四半期連続でマイナスとなるなど内容も弱く、昨年度中は景気が足踏み状態にあったことを改めて示す結果となりました。

一方で当社を取り巻く国内ITサービス市場においては、経済産業省の推進するデジタルトランスフォーメーション（DX）に関連するシステム投資が継続してその存在感を強めております。政府は22年に経済安全保障推進法に基づきクラウドを「特定重要物資」の対象に加えました。有事が発生しても供給網が途絶えない体制づくりを目指し、関連する国内企業に対して補助金などの支援策を用意し、具体的措置として経済産業省からさくらインターネットに対し6億円の補助が行われました。継続してデジタルトランスフォーメーション（DX）のトレンドが進展する中、生産性の向上や業務の効率化を目的として、クラウドサービスを優先的に採用する「クラウドファースト戦略」を実行する企業が増加しており、2022年の国内クラウドサービス市場規模は、前年比37.8%増の5兆8,142億円となりました。2022年～2027年の年間平均成長率（CAGR：Compound Annual Growth Rate）は17.9%で推移し、2027年の市場規模は2022年比約2.3倍の13兆2,571億円になると予測されております。（出所：IDCJapan株式会社「国内クラウド 市場用途別売上額予測、2022年～2027年」）

このような経営環境のもと、当社は、超高速CMS実行環境「KUSANAGI」をはじめとしたサーバ高速化ソリューション「KUSANAGI Stack」でKUSANAGI Stack事業を展開し、一気に貫通でWebサイトの保守・運用を行うKUSANAGI マネージドサービスの拡大を図ってまいりました。しかし、昨期から取り組んでいる営業力強化のための施策が思うような結果が生まれ出せておらず、新規受注の獲得のペースの遅れや、大型の解約があったことにより、第2四半期では前年同期と比べて減収減益となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高417,764千円（前年同期比5.2%減）、営業利益97,215千円（前年同期比38.9%減）、経常利益97,783千円（前年同期比29.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益69,967千円（前年同期比27.1%減）となりました。

なお、当社グループの事業セグメントは、KUSANAGI Stack事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末より27,108千円増加して1,353,133千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は65,588千円（前年同四半期は77,871千円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益97,783千円によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は4,923千円（前年同四半期は19,417千円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産取得による支出5,110千円によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用した資金は35,861千円（前年同四半期は730,677千円の獲得）となりました。これは主に、配当金の支払額68,862千円によるものです。

(4) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(5) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(6) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(7) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は11,600千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(8) 経営成績に重要な影響を与える要因

当第2四半期連結累計期間において、経営成績に重要な影響を与える要因について重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2024年5月31日)	提出日現在発行数(株) (2024年7月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,486,400	3,492,200	東京証券取引所 スタンダード市場	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	3,486,400	3,492,200	-	-

(注) 1. 新株予約権の行使により提出日現在の発行済株式総数が5,800株増加しております。

2. 提出日現在発行数には、2024年7月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使による発行された株式数は、含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
2024年3月1日～ 2024年5月31日 (注)1.	1,400	3,486,400	248	434,258	248	394,258

(注)1. 新株予約権の行使による増加であります。

2. 2024年6月1日から2024年6月30日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が5,800株、資本金及び資本準備金がそれぞれ2,247千円増加しております。

(5) 【大株主の状況】

2024年5月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有株式数の割合 (%)
中村 けん牛	東京都千代田区	1,447,800	41.53
中村 八千代	東京都千代田区	646,400	18.54
株式会社エアトリ	東京都港区愛宕2丁目5番1号 愛宕グリーンヒルズMORIタワー19階	116,000	3.33
大島 義裕	神奈川県川崎市高津区	51,600	1.48
株式会社イントラスト	東京都千代田区麹町1丁目4	37,200	1.07
北川 誉人	千葉県流山市	22,100	0.63
ベル投資事業有限責任組合1	東京都港区虎ノ門4丁目1番40号	20,000	0.57
秋山 峰延	東京都品川区	13,700	0.39
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	13,100	0.38
戸野倉 正勝	埼玉県比企郡小川町	12,400	0.36
計	-	2,380,300	68.27

(6) 【議決権の状況】
 【発行済株式】

2024年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,483,000	34,830	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 3,400	-	-
発行済株式総数	3,486,400	-	-
総株主の議決権	-	34,830	-

(注) 「単元未満株式」には当社保有の自己株式が、31株含まれています。

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2024年3月1日から2024年5月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年12月1日から2024年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,326,025	1,353,133
売掛金	86,736	81,201
仕掛品	486	2,617
前払費用	27,529	33,727
未収入金	499	3,096
その他	2,546	3,341
流動資産合計	1,443,823	1,477,118
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,811	2,882
減価償却累計額	845	117
建物及び構築物(純額)	966	2,765
工具、器具及び備品	7,360	6,826
減価償却累計額	6,706	3,912
工具、器具及び備品(純額)	653	2,913
有形固定資産合計	1,620	5,679
無形固定資産		
ソフトウェア	12,564	9,681
その他	16,097	18,582
無形固定資産合計	28,661	28,263
投資その他の資産		
長期前払費用	6,069	12,152
繰延税金資産	1,478	1,518
その他	20,512	17,770
投資その他の資産合計	28,060	31,440
固定資産合計	58,342	65,383
資産合計	1,502,165	1,542,502

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	19,870	20,320
1年内返済予定の長期借入金	28,840	35,808
未払費用	27,659	27,948
未払法人税等	35,302	33,614
契約負債	19,862	26,643
その他	17,390	15,559
流動負債合計	148,924	159,893
固定負債		
長期借入金	54,279	70,585
固定負債合計	54,279	70,585
負債合計	203,203	230,478
純資産の部		
株主資本		
資本金	429,394	434,258
資本剰余金	389,529	394,392
利益剰余金	474,181	474,969
自己株式	96	96
株主資本合計	1,293,008	1,303,523
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	5,953	8,499
その他の包括利益累計額合計	5,953	8,499
純資産合計	1,298,961	1,312,023
負債純資産合計	1,502,165	1,542,502

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年12月 1 日 至 2023年 5 月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年12月 1 日 至 2024年 5 月31日)
売上高	440,485	417,764
売上原価	140,007	160,353
売上総利益	300,477	257,410
販売費及び一般管理費	141,331	160,195
営業利益	159,145	97,215
営業外収益		
受取利息	2	6
受取奨励金	-	1,450
為替差益	23	-
営業外収益合計	25	1,456
営業外費用		
支払利息	641	465
上場関連費用	20,342	-
為替差損	-	255
その他	135	165
営業外費用合計	21,119	887
経常利益	138,051	97,783
特別損失		
固定資産除却損	51	-
特別損失合計	51	-
税金等調整前四半期純利益	137,999	97,783
法人税等	41,999	27,816
四半期純利益	96,000	69,967
親会社株主に帰属する四半期純利益	96,000	69,967

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
四半期純利益	96,000	69,967
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	421	2,545
その他の包括利益合計	421	2,545
四半期包括利益	96,421	72,513
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	96,421	72,513

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	137,999	97,783
減価償却費	4,314	3,874
固定資産除却損	51	-
受取利息及び受取配当金	2	6
支払利息	641	465
上場関連費用	20,342	-
売上債権の増減額(は増加)	2,908	5,886
棚卸資産の増減額(は増加)	289	2,130
仕入債務の増減額(は減少)	4,556	446
前払費用の増減額(は増加)	3,602	6,132
長期前払費用の増減額(は増加)	6,932	6,083
未収入金の増減額(は増加)	1,047	2,428
未払費用の増減額(は減少)	3,270	102
その他	4,608	9,777
小計	158,487	101,351
利息及び配当金の受取額	2	6
利息の支払額	641	465
法人税等の支払額	79,976	35,303
営業活動によるキャッシュ・フロー	77,871	65,588
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	-	5,110
無形固定資産の取得による支出	1,792	2,502
敷金の差入による支出	17,625	-
敷金の回収による収入	-	2,689
投資活動によるキャッシュ・フロー	19,417	4,923
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	-	50,000
長期借入金の返済による支出	27,672	26,726
上場関連費用の支出	20,342	-
株式の発行による収入	778,789	9,727
自己株式の取得による支出	96	-
配当金の支払額	-	68,862
財務活動によるキャッシュ・フロー	730,677	35,861
現金及び現金同等物に係る換算差額	379	2,304
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	789,512	27,108
現金及び現金同等物の期首残高	558,684	1,326,025
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,348,196	1,353,133

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
役員報酬	34,294千円	30,855千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
現金及び預金勘定	1,348,196千円	1,353,133千円
現金及び現金同等物	1,348,196	1,353,133

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、株式会社東京証券取引所により上場承認を受け、2023年2月22日に東京証券取引所スタンダード市場に上場いたしました。この株式上場にあたり、2023年2月21日を払込期日とする有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)による新株式発行464,000株により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ296,681千円増加しております。

また、2023年3月23日を払込期日とする第三者割当増資(オーバーアロットメントによる売出し)による新株式発行145,000株により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ92,713千円増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が429,394千円、資本剰余金が389,529千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年1月29日 取締役会	普通株式	69	20	2023年11月30日	2024年2月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)

当社グループは、「KUSANAGI Stack事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)

当社グループは、「KUSANAGI Stack事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
一時点で移転される財又はサービス(注)	68,000千円	56,328千円
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	372,484	361,435
顧客との契約から生じる収益	440,485	417,764
その他の収益	-	-
外部顧客への売上高	440,485	417,764

(注) 契約における取引開始日から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い受注制作のソフトウェアについては、代替的な取扱いを適用し、一時点で移転される財又はサービスの金額に含めて記載しております。

主要なサービス毎の収益の分解情報は以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
KUSANAGI マネージドサービス	309,219千円	292,351千円
クラウドインテグレーションサービス	68,000	56,328
ライセンス販売	63,264	69,083
顧客との契約から生じる収益	440,485	417,764
その他の収益	-	-
外部顧客への売上高	440,485	417,764

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月1日 至 2024年5月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	30円37銭	20円09銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	96,000	69,967
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	96,000	69,967
普通株式の期中平均株式数(株)	3,160,713	3,482,780
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	28円31銭	19円12銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	230,066	176,052
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 当社は、2023年2月22日に東京証券取引所スタンダード市場に上場したため、前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、新規上場日から前第2四半期連結会計期間末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年7月11日

プライム・ストラテジー株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 跡部 尚志
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 中井 清二
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているプライム・ストラテジー株式会社の2023年12月1日から2024年11月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2024年3月1日から2024年5月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年12月1日から2024年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、プライム・ストラテジー株式会社及び連結子会社の2024年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 . 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 . X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。